

日本共産党 政務調査報告

大津市 地域包括支援センターの
機能について

2018年8月8日 視察



1 政務調査の目的

大津市では「包括支援センター」と「保健センター」が併設されており、「妊娠期から高齢期」まで世代を問わず、地域のすべての人を対象とした機関となっている点を視察。

3 視察概要

大津市役所にて、ワンストップで切れ目ない子育て、介護、障がい者の相談体制を整えている状況の調査。

大津市の概要

- 1 滋賀県大津市(琵琶湖の南) 東西最長20.6km
南北最長45.6kmと琵琶湖沿いに南北に長い市域を形成
- 2 人口:342,088人 世帯数:14,669世帯
面積:464.51km²
- 3 大津は、667年天智天皇が、近江大津宮に都を移して以来、琵琶湖を支配する要所として栄えてきた。また、東海道の53番目の宿場町としても知られる。
- 4 幾度もの合併を重ね、平成18年、平成の合併の流れで滋賀町と合併。新大津市がスタート。平成17年から人口30万人を突破。平成21年4月に中核市へ移行。より市民に身近なところで市民サービスが提供できるようになる。
- 5 また、大津市議会は、議会改革が進んでいることが知られている。

包括支援センターと保健センター の設置状況

- 1 大津市では南北に長い地域を7つの地域に分け、包括支援センター（あんしん長寿相談所）と、保健センター（すこやか相談所）を併設して設置。「妊娠期から高齢期」まで世代を問わず地域のすべての人を対象とした、誰もが相談できる機関となっている。
- 2 飯田市の場合、別々の場所で運営している。併設の効果を調査した。

「あんしん長寿相談所」と「すこやか相談所」を併設した理由

- 1 すこやか相談所の設置目的である、地域全体を視野に入れた健康で生き生き暮らせるまちづくりに合致する。
- 2 「すこやか相談所」の併設により、介護予防の地域づくりを進めることができる。
- 3 介護予防の拠点として生活習慣病から介護予防まで、連続性・一貫性のあるシステムの構築。
- 4 保健と福祉の一元化。家族単位での連携がスムーズにできる。
- 5 同じ場所で市民のライフサイクルを通し、保健・福祉活動の支援を継続することができる。

「あんしん長寿相談所」の職員配置 7箇所 の体制

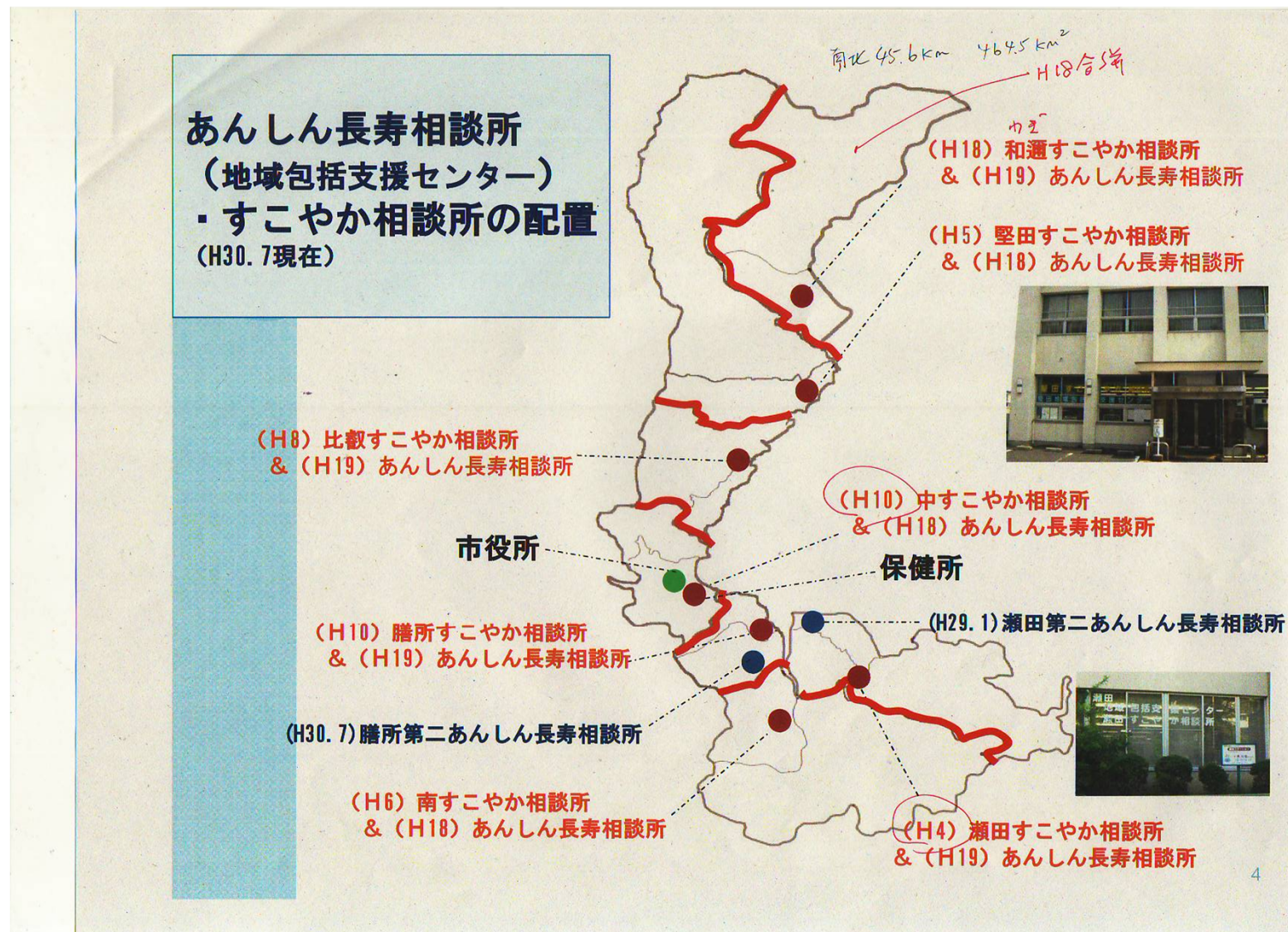
- 1 所長: 1 人 (保健師)、
- 2 相談専任: 1 人 (保健師)、
- 3 社会福祉士: 1 ~ 3 人 (嘱託)、
- 4 主任介護支援専門員: 2 ~ 3 人 (ケアマネ)、
- 5 介護支援専門員: 3 ~ 4 人 (市 嘱託)

「すこやか相談所」の職員配置 7箇所全体の体制

- 1 所長: 7人
- 2 保健師: 25人
- 3 ヘルスアドバイザー(臨時保健師): 8人
- 4 助産師: 3人

●「すこやか相談所」と併設されている「あんしん長寿相談所」7箇所は基幹型になっていて、直営で運営している。他に圏域型2箇所があり、これは民間委託の形で運営されている。

あんしん長寿相談所(地域包括支援センター) とすこやか相談所(保健センター)の配置



考察・感想

- 1 妊娠期・育児と高齢期介護の「ダブルケア」が社会問題化している中で、専門職が常駐しワンストップで切れ目無く相談できる仕組みが整備されている。
- 2 この様な包括的な体制を整備することにより、こども、障がい者、高齢者など分け隔ての無い対応が可能となる。特定の分野にとらわれることの無い、社会資源となっていくことが可能である。
- 3 飯田市でも、できれば併設を目指していただきたいが、課内の連携を強化し、切れ目のないワンストップ支援が出来ればと考える。

ご静聴ありがとうございました

大津市議会本会議場にて

